

「志成」＝志有る者、事ついに成る＝



PTAだより

 2021.12.23
Vol. 109

 本校
ホームページ

滋賀県立河瀬中学校・高等学校 PTA 会報



2学期の終了にあたって

PTA会長 大林 博幸

平素は、本校 PTA・教育振興会活動にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

本年度も新型コロナウイルス感染症の影響、特に年度当初の第4波、6月下旬から9月にかけての第5波の影響により、PTA 総会の対面での開催見合わせや研修旅行の中止の等、保護者の皆さんが、PTA や学校行事に参加いただく機会が設けられず大変残念な状況になっております。そんな中、毎月の挨拶運動、また夏休み期間中の環境整備活動では、PTA 役員・評議員の皆さんを中心に少人数での活動となり、参加各人に多大なご負担をお掛けし大変申し訳なく思うとともに、無事実施できたことに感謝申し上げます。

一方、子ども達の学校生活に目を向けると、昨年度は長期の臨時休校があったり、学校行事、部活動等の課外活動の多くが中止になったり、子ども達にとっても大変つらい状況でした。本年度は、一部行事において延期や制限があるものの、中学校の修学旅行や多くの課外授業・活動が無事に実施されており、先生方をはじめ調整いただいている関係者の皆さんには、只々感謝しております。

11月現在コロナの感染状況は大幅な減少傾向にあるものの、多くの専門家が、この冬の新型コロナウイルス感染拡大の第6波を予測しています。高校3年生にとって、とても大切な受験期と重なるため、学校が安心・安全な場所となるよう先生方とも一層の連携を図って参りたいと考えております。

今後ともPTA・教育振興会活動へ変わらぬご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



2学期を振り返って

校長 中村 隆洋

平素は、本校教育活動ならびにPTA活動にご理解・ご協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

この2学期は、8月末、新型コロナウイルスのデルタ株感染拡大による緊急事態宣言発令から始まり、9月は話し合い活動や実験など感染リスクの高い学習活動を制限し、部活動も原則停止となりました。学校行事も、中学3年生の長崎方面修学旅行はどうか実施できましたが、高校2年生の北海道方面修学旅行は残念ながら感染リスクを考慮し、来年2月に行き先を九州方面に変更し延期としました。

10月以降は新型コロナ感染も減少し徐々に平常が戻ってきました。高体連・高文祭や中学校アカデミックプログラムでの大学准教授等を招いての講演、高校生/JICA講演会など各種の体験活動を感染予防対策を施しながら実施できました。また、11月4日・5日のオープンスクールには多くの保護者の皆さんにご来校いただき、授業を参観いただきました。

3学期、中学3年生は河瀬高校への内部進学に向けて、授業の先取りや高校生活のガイダンスなどの準備を進めていきます。また、高校3年生は来年1月15日・16日の大学入学共通テストを目標に受験勉強のラストスパートです。冬休み中も個別の進学指導や自習教室の開放をします。自分を信じて今できることを精一杯取り組んでください。健闘を祈っています。

年末年始となりますが、ご家庭におかれましても感染予防対策の継続にご協力くださいますようお願いいたします。

環境整備委員会



校地内除草作業を実施しました

委員長 山本 喜彦

令和3年8月21日(土)午前8時よりPTAによる校地内除草作業を実施しました。集合時は曇っていましたが、作業が始まると真夏の日差しがぎらぎらと照りつける日となりました。

昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症対策として、検温、マスク着用、アルコール消毒などを実施、今年は参加者をPTA役員などに縮小して行いました。幸いにも校舎リフォームのため除草区域が少なかったことと、事前に先生方が多くの草刈り作業を行っていただいたおかげで作業をスムーズに完了することが出来ました。それでもグラウンド裏を中心に刈り取った草は軽トラック積載10回以上にもなりました。

みなさまのご協力が無事に実施することが出来ました。ありがとうございました。



生徒指導委員会



挨拶運動を実施

委員長 中江 ひろみ



PTA生徒指導委員会では、7時50分から8時20分頃の間、挨拶運動を実施いたしました。先生方、PTA役員の皆さんと分担し、登校して来る生徒さん方に挨拶をしました。

コロナウイルス感染症の拡大が危惧される中、一人一人の生徒さん方に心を込め、大きな声で挨拶をしてくださっている先生方、PTA役員の皆様には深く感謝いたしております。

元気に登校し、ハキハキと挨拶を返してくれる生徒さん。恥ずかしそうに小さな声で挨拶を返してくれる生徒さん。それぞれの個性が光る楽しい挨拶運動に参加させていただきました。生徒の皆さんには、きちんと気持ちの良い挨拶ができる大人になっていただきたいと心より願っております。今年度も挨拶運動にご協力をいただきありがとうございました。

オープンスクール

11月4日(木)、5日(金)の2日間、普段の学校の様子をご覧いただく河瀬オープンスクールを実施しました。お忙しいところにも関わらずのべ50名の保護者の方々にご参加いただきました。ありがとうございました。滋賀県立大学からは、木村裕先生ならびに鵜飼修先生にお越



しいいただき、ご助言を賜りました。今後とも本校の教育活動にご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。



ICT活用研究

本年度のパナソニック教育財団実践研究チームはICTを用いた“質問を作る力の育成”と“疑似体験”による教育効果をテーマとしています。オープンスクールと並行して実施された研究授業において、中谷大輔教諭(中学・社会)は、通常は教員が提示する“めあて”となる“問い”を、生徒がロイロノートを用いて考えを共有しながら導き出すという実践をしました。北村和輝教諭(高校・日本史)は、蒙古襲来がテーマのTVゲームのプロモーションビデオの一部を用い、イメージを高めた後、仮説を立て、検証する方法を考えるという手法に挑みました。久保川剛宏教諭(高校・生物)は、図書館とコラボし、遺伝子の情報が伝達されていくという概念理解と周辺体験による図書館利用啓発運動という新しいアプローチを取り入れた授業に挑戦しました。何れにしてもICTを使うこと自体を目的とせず、教育効果を高めるための活用を心掛けています。



河瀬中学校・高等学校コミュニティスクール(学校運営協議会制度)

コミュニティ・スクールとは学校運営協議会を設置している学校のことで、保護者や地域住民がより一層学校運営に参画することが可能となる仕組みです。保護者や地域住民等が学校職員とともに教育の当事者となり、子どもの教育に関する課題や目標を共有することで、家庭や地域と学校との連携・協働の取組みを充実させることができます。

本校では平成30年度より、コミュニティ・スクールをスタートさせました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のためほとんどの行事が中止となりましたが、今年度は、時期を変更したり規模を縮小したりしながら一部実施できました。今後、来年度に向けて計画を立て直しますが、これまで取り組んできた次のような活動は行っていきたいと思っています。

- ・中学生による小学校への英語の出前授業
- ・高3生による文化祭での地域商店とのコラボ出店
- ・各部活動等による地域連携・貢献活動(学校周辺清掃活動、吹奏楽部の依頼演奏、科学部のクラフト・ビール(彦根麦酒)との連携、など)
- ・地元大学の先生や県内で環境保全活動をされている方々による中学・高校への出前授業

中学2年生職場体験学習

10月25日から28日の4日間、26か所の事業所に分かれ、職場体験学習を実施しました。普段とは異なる場所、しかも初対面の人たちの中での体験ということで、かなり緊張や不安もあったようです。しかしたくさんの方々と関わりの中で一生懸命に活動し、大きな学びや気づきを得ることができました。

生徒の感想より・・・いろいろな人に感謝しながら生活すべきであると改めて感じた。／自ら仕事を見つけて動くことが大切。／仕事はとても大変なもので、この世にあふれているものはすべて仕事で支えられていると知って、大切なものだ気付いた。

保護者の感想より・・・体験が自信につながった。責任感が芽生えていたことに正直驚いた。／「働くこと」とはどういうことなのか、子供が自分で話す姿が見られ普段の生活の中では味わうことのできない体験ができたと感じた。／支え合う社会を感じられたことが一番良いことだと思いました。

新型コロナの影響を受けて延期しましたが、無事に実



施でき本当に良かったと思います。これもひとえに、快く受け入れてくださりご指導いただいた事業所の皆様、そして保護者の皆様のご理解のおかげだと感謝しています。本当にありがとうございました。



JICA 講演会

10月27日(水)の6,7時間目に、国際協力機構(JICA)の青年海外協力隊として環境教育分野で活動された立命館大学4回生の細川ひかり様をお招きして「JICA 国際協力出前講座」を実施しました。

細川さんは2019年の4月から2年間で中米のコスタリカの役所でゴミ問題の解決に取り組んでこられました。本校の高校1年生を対象に「日本の国際協力について」「JICAとは?協力隊とは?」「参加の経緯」「協力隊としての活動(任地/帰国後)」などについて写真などスライドを用いてわかりやすく説明してくださいました。また、講演後の質疑応答の時間には事前に送付していたいろんな質問にも丁寧に答えてくださり、今までに名前は聞いたことはあるが内容についてはほとんど知らない生徒たちもこの講演を通じてJICAのことがよく理解でき、「ボランティア活動の大切さ」「JICAの活動がSDGsにつながっている」「国際協力の大切さがわかった」「私たちの生活が「当たり前」「正しい」わけではないということに気づいた」等の感想を書いていました。



アカデミックプログラム

中学
1年

学年主任 藤田 直樹

10月20日(水)、滋賀県立琵琶湖博物館を訪問しました。生活班に分かれ、琵琶湖に生息するプランクトンの採集・観察、パックテストによる水質調査実習、館内見学を行いました。プランクトン採集では、普段なかなか見ることのできない貴重な種類も見つけられました。館内見学では、琵琶湖の生い立ちやそこに生きる生物の変遷、人と琵琶湖の関わり合いの歴史の展示を見学しました。湖国の食文化をテーマとした特別展示では、琵琶湖周辺の各地域の郷土料理の展示に興味深く見学する姿が見られました。研究員の方に質問したり、仲間と協力して作業を行ったり、展示を楽しむなど、生徒の普段とは違う一面が見られました。

また、11月11日には、愛知学院大学より野田大志先生をお招きし、「日本人が日本語を学ぶ!? ～現代日本語学の世界～」と題し、講義をしていただきました。



校外学習

中学
2年

学年主任 藤原 恵子

10月20日(水)、校外学習として名古屋市科学館、トヨタ産業技術記念館を見学しました。

名古屋市科学館では、わかりやすく興味を引く展示物や、実際に触れて体験出来る展示物を通じて、科学・生命・宇宙の世界を感じることができました。授業で学習した内容とつながる展示もあり、科学のおもしろさや奥深さをたくさん味わうことができました。トヨタ産業技術記念館では、近代日本の発展を支えた基幹産業のひとつである繊維機械と、現代を開拓し続ける自動車の技術の変遷について、本物の機械の動態展示や実演を通して学びました。特に機械の仕組みと正確な動きに驚かされ、日本のモノづくりのすばらしさをたくさん感じる事ができました。



3年生最大の行事修学旅行を終えて

中学
3年

学年主任 富岡 理恵

2021修学旅行スローガン Think to change

～親友から真友へ～ 踏み出そう その一歩

長崎で学んだ平和の尊さ

修学旅行の大きな目的の1つである長崎の平和学習にのぞみました。バスの中では、長崎に原爆が落とされた経緯や、自らも重い傷を負いながらも負傷者の救護や放射線障害の研究に献身的に取り組んだ永井隆博士の話をうかがい、今ある平和はこうした歴史の上に成り立っているのだということを痛感しました。原爆資料館で被爆の惨状を示す写真や資料を実際に見ることで、被害の大きさを再認識しました。

ハウステンボスでのひと時

2日目の午後は待ちに待ったハウステンボス英語プログラムと自主研修です。天気が心配されましたが皆の気持ちを通じたのか、雨も降らず、英語プログラムやアトラクション、買い物を楽しみました。自分たちでお店やメニューを決めて食べたディナーも思い出深いものになりました。その後イルミネーションに彩られたハウステンボスで最高に贅沢な時間を過ごすことができました。

10月20日(水)～22(金)の3日間の修学旅行で17期生が得たものは本当に大きかったと思います。これから先の人生において大きな財産となったはず。このことを今後の学校生



活にも活かして更に河瀬中学校の最高学年としての気持ちをもっと高めていけるようみんなで頑張っていきたいと思います。

昨年度に続きコロナ禍で行事が自粛になる中、修学旅行が実施できるか心配しましたが、無事実施することができ本当に嬉しく思っています。これもひとえに、保護者のみなさまのご理解と、周りの先生方や添乗員、カメラマン等多くの方々のご協力のおかげだと感謝しております。本当にありがとうございました。



総合的探究の時間 発表会

学年主任 西村 育浩

高校
1年

高校1年生では夏休みに、自分が興味関心のある分野のノンフィクション本を2冊読み、その2冊から導き出された自分なりの考えや意見をポスターにまとめました。そして、それぞれが作成した「本の紹介ポスター」を用いて、1人5分程度の発表をしました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止の観点から発言することに制限が必要となり、伝達方法にも工夫が求められました。そのような状況でもイラストや写真を活用し、視覚にうったえかける作品に仕上げた生徒や、自分が導き出した意見を熱く語る生徒など、聞く側が「本の魅力」を大いに感じられる内容となりました。今回の学習を通して、「自分の思考を整理する力」や「周りの

人にわかりやすく伝える力」を養う、良い経験となりました。

また、読んだ本の「著者への感謝の手紙を書く!」として、本を読んだことや今後の探究活動として調べてみたいことを著者へのお礼の手紙として送ったところ。著者の方から多くの生徒に丁寧な返信をいただき、今後の活動の励みとなりました。



2学期末

学年主任 古株 洋

高校
2年

昨年との大きな違いは新型コロナ対策をとりながら様々な行事が実施できたことです。

校外学習や体育祭、文化祭での生き活きとした生徒たちの様子は、見ている私たちまで元気になってくれました。残念ながら修学旅行は2月に延期となりましたが、今の状況が続くこと(執筆時、数日連続で新規感染者がゼロ)を期待し、高校生活最大のイベントが実施できることを祈っています。

さて、2021年がまもなく終わろうとしています。皆さんにとって、今年はどんな1年だったでしょう? 年が明けると3学期が始まります。よく高校2年生の3学期は「高校3年生の0学期」と言われます。受験に向けて本格的に取り組んでいこう、という意味があるのでしょうか。ところで本校の校訓が「志成」ということはご存知だと思います。この言葉は、

後漢書にある「志有る者、事ついに成る」からのものです。同じ後漢書の中に「志は易きを求めず、事は難しきを避かず」という言葉も収められています。

これは「志を立てるときは、易しいものではない。物事を実行するときには、難しいことを避けてはいけません」という意味です。新しい抱負や夢を設定することが、1年の様々な節目の中でも1月はひと際強いものと思われれます。高い志をもって、困難に立ち向かう気持ちで日々、生活を送ってほしいと思います。引き続きご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



校外学習を終えて

学年主任 京極 文子

高校
3年

平素からご支援を賜りありがとうございます。5回もの修学旅行の延期・中止、1度の延期を経てやっと校外学習が実施出来ました。校外学習としては昨年度もコロナ禍で実施できなかったことを考えると、万感胸に迫る? バス遠足でした。長梅雨が心配された日程でしたが、天候にも恵まれ、学園祭終了後受験モードに切り替えた小休止として、それぞれによいひとときを過ごせました。その後夏の自学自習マラソ

ンも大勢参加し、以来早朝から19時までの勉強に専念中です。多くの生徒が教科担当者のもとにやってきては自分の言葉で質問しています。そうした対話が学力アップに繋がることも多く、その頑張りが静かに共有できていることもありがたいことです。

いよいよ進路実現のときがやってまいりました。厳しい試験もあるかもしれませんが。そびえ立つ壁があっても絶望せず仲間と連帯して粘り強く挑戦する力、複雑さに耐える力こそが究極の学力だと思います。「風の強い日の旗は美しい」。素晴らしい力が結実しますように学年団一同力を尽くしたいと思います。引き続きよろしくお願い申し上げます。



令和 3 年度秋季総合体育大会、総合文化祭等の結果

●高 校

【運動部】

○陸上部

<令和 3 年度 秋季高等学校総合体育大会陸上競技の部>
男子 800 m 1 位 高木 章伍 高校 1 年

○女子ハンドボール部

<令和 3 年度滋賀県高等学校秋季総合体育大会>
ベスト 4
優秀選手 野洲 小桜 高校 2 年

【文化部】

○書道部

<第 62 回大東文化大学主催 全国書道展>
団体「全日本書道連盟賞」
「全国書美術振興会賞」 居藤 紫帆 高校 1 年
「審査員奨励賞」 中島 彩弥 高校 1 年
「読売高校・一般紙上書道展 上期」
二席 居藤 紫帆
三席 小泉 真優

○写真部

<第 42 回滋賀県高等学校総合文化祭写真部門写真展>
・特選 (県 2 位)、入選 1 位 田中 碧 高校 1 年
・佳作 西村 駿之介、荒巻 隼一郎、小林 唯、
野々村 颯真、井上 遥翔
2022 年度全国総文祭出場 第 46 回とうきょう総文
2022 年度近畿総文祭出場

<第 41 回近畿高等学校総合文化祭 写真部門>
・優秀賞 (県 1 位) 田中 碧 高校 1 年

○科学部

<第 65 回学生科学賞県展 高等学校の部>
優良賞 (3 位) 化学班 2021 年度日本学生科学賞出品
<第 41 回滋賀県高等学校総合文化祭自然科学部門研究
発表会>
<第 75 回滋賀県児童生徒科学研究発表会>
化学研究部門 1 位 2022 年度全国高等学校総合文化祭
<第 46 回とうきょう総文>
出場

○文芸部

<令和 3 年度滋賀県高校総文>
文芸コンクール
短歌部門 第 2 位 乃一 有澄 高校 2 年

○ESS 部

<岐阜女子大学主催
第 11 回英語キャプションコンテスト>
奨励賞 本田 来夢 高校 2 年

●中 学

【文化部】

○書道部

<読売紙上書道滋賀展>
二席 石田 香穂 中学 2 年

福島学習

ホープツーリズム、オンラインプログラム 「ふくしま学習」について

8/19~21に福島県に行き「ふくしま学宿」として災害と復興を学ぶ予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況下であったため、今年度はオンラインによる4回の講座を、本校の視聴覚室で10/22~11/12かけての放課後に実施しました。東日本大震災と東京電力福島第1原子力発電所の事故、その後の復興にむけての福島の歩みを中学3年生から高校2年生の希望者20名が学びました。

講座はフィールドパートナーの「まちづくりなみえ」菅野孝明氏の進行で、帰宅困難地域のオンラインフィールドワークから始まりました。続いて、事業者分野からNoMAラボ高橋代表理事、農業分野から福島しろはとファーム長井氏、エネルギー分野から葛尾創生電力の鈴木氏、医療分野からふたば医療センター谷川センター長の講演をお聞きし、最終日はグループ討議を行いました。回数を重ねるにつれ、各自が自分のこととして学びを深め積極的に向かう姿が見られました。この学びを、今後は伝える側として、各自が取り組むことを期待しています。



企業・大学との共同研究

彦根麦酒 (株) × 長浜バイオ大学 × 河瀬中学校・高等学校科学部「ALL 彦根産の麦酒をつくろう」研究発表会

4月から彦根麦酒 (株) と長浜バイオ大学との共同研究として、本校科学部は麦酒醸造に適した酵母を探す役割を担いました。植生も豊かな彦根城を調査地に決め、花や実から適した酵母を探すため、中学生と高校生が協力し、数多くのサンプルを採取しました。そのサンプルを8月に長浜バイオ大学の実験機器を使用して、DNA配列から酵母を同定しました。

採取にあたり、彦根城の固有種である「オオトックリイチゴ」に着目し、まず花から作業を進めましたが、残念ながら適した酵母を見つけることはできませんでした。実については上手く実習を進めることが出来なかったため、次年度の採取に課題を残すこととなりました。しかし、サンプルを同定していく中で採取場所によって酵母の分布に違いがあるのではないかと考えられました。

この研究の取り組みを、11月14日 (日) に彦根麦酒 (株)、長浜バイオ大学の先生方を交えて本校CAI教室にて、プレゼンテーションによる研究発表会を行いました。そこでいただいた質問や意見を、今後の活動に活かして行きたいと思ひます。

きれいになりました

～生徒用トイレと校舎外壁～

新型コロナウイルス感染症の影響で遅れていた生徒用トイレの改修工事が8月上旬に全て完了しました。便器は和式から洋式に変わり、数も増え、内装や洗面台も明るくきれいになり、快適に使用できるようになりました。内装やデザインには生徒会執行部の意見も反映されています。

また、夏休み中より校舎外壁の改修工事が行われていましたが、先日、HR教室棟の改修が完了し、青空にひととき映える美しい校舎に生まれ変わりました。今後も芸術棟、理科棟、管理棟などについて引き続き外壁の改修工事が行われる予定です。



教員紹介

第70回 読売教育賞優秀賞

久保川 剛宏 先生

読売教育賞は全国の学校や地域の優れた教育実践を顕彰するもので、これまでの ICT を活用した授業などが評価され、「ゲームフィクションを導入した植生フィールドワーク」というテーマで、理科教育部門の優秀賞に選ばれました。

この度優秀賞を受賞した実践は、生徒が主体的に取り組むものであり、その活動の結果、生徒の成長・変容がみられたことが評価されたものです。これは決して私一人の力で実現できるものではなく、他の教科の授業や保護者の方々の関わり、そして何より生徒一人一人の学びようとする意志、校訓“志成”が具現化した結果であると確信しております。“予測不可能な時代に、教師の力に頼るのではなく自ら学び続ける生徒”をキーワードとして今後も教育実践を重ねていきます。本校の教育活動にご理解・ご協力の程よろしくお願いいたします。



大東文化大学

第 62 回全国書道展 優秀指導者賞

武原 悠子 先生

大東文化大学全国書道展は、日本国内だけでなく海外からも多くの作品が寄せられ、例年2万5千点程の応募がある書道展です。河瀬高校の生徒も上位入賞する中、今回の指導が評価され、優秀指導者賞に選ばれました。

PTA だより

vol.109

2021.12.23(木)発行
滋賀県彦根市川瀬馬場町 975

滋賀県立河瀬
中学校・高等学校

TEL 0749-25-2200

FAX 0749-28-2935

<http://www.kawase-h.shiga-ed.jp/>

